

●一般型

(平成21～23年度)

# 愛媛県南予エリア

## 持続可能な“えひめ発”日本型養殖モデルの創出

財団法人 えひめ産業振興財団  
〒791-1101 愛媛県松山市久米窪田町337-1  
TEL. 089-960-1100



### 事業推進体制

- 事業総括……………若原 隆 ((財)えひめ産業振興財団専務理事)
- 研究統括……………泉 英二 (愛媛大学社会連携推進機構構長)
- 副研究統括……………菅原 卓也
- 科学技術コーディネータ…太宰 啓至、金尾 聡志

### 核となる研究機関

- 愛媛大学、愛媛県農林水産研究所水産研究センター

### 主な参加研究機関

- 産…愛媛県漁業協同組合連合会、愛南漁業協同組合、下波漁業協同組合、愛媛県認定漁業士協同組合、愛媛県真珠養殖漁業協同組合、(株)ダイニチ、辻水産(株)、日本配合飼料(株)
- 学…愛媛大学、香川大学、高知大学、徳島文理大学、三重大学、はこだて未来大学、北海道大学、水産大学校
- 官…愛媛県農林水産研究所水産研究センター

### 本事業のねらい

「高度管理型魚類養殖技術」、「未利用バイオマス飼料化技術」、「温暖化対応型真珠養殖技術」などの新技術を確立することにより、水産物の高付加価値化を進めるとともに、「研究交流事業」として産学官のネットワークを構築し、研究開発成果の早期事業化を促し、高付加価値商品の実用化や新流通体制の構築の検討を行う。

これら本事業の成果である産学官のネットワークや新技術・ノウハウ等が、「“えひめ発”日本型養殖モデル」として他の水産養殖産地へ活用・発展することで、愛媛県内のみならず全国において養殖を活用した水産振興がなされ、儲かる水産業が展開されることにより、所得の安定、後継者不足の解消ならびに、安心、安全な水産物の安定的な供給に資することが期待できる。

### 事業の内容

#### 1. 高度管理型魚類養殖技術の研究開発

南予地域では、新たな高級魚種としてハタ類・イシガキダイの養殖に取り組んでいるが、本来中底層に生息する魚種であることから、通常(表層)養殖では、安定的な生産には至っていない。そこで本研究テーマでは、南予地域の大深度内湾という特徴を活かして、水温等の状況に応じて快適環境水域へ生簀を移動できる「水深可変型養殖生産システム」の技術を確立し、疾病抑制による無投薬や品質の向上、環境負荷低減などを実現する。また、生産情報や品質評価情報等の知的データベース化を行い、消費者までの情報提供機能や、養殖業者の生産計画管理支援機能を備えた「生産流通情報管理システム」を構築する。

#### 2. 未利用バイオマス飼料化技術の研究開発

近年、水産養殖産業では、輸入に依存する魚粉価格の高騰が養殖業者の経営圧迫要因のひとつとなっているとともに、その将来の供給不足も懸念されている。一方、地域の食品加工業者では、水産・植物加工残渣などの廃棄コストが経営を圧迫しており、これらの有効利用が望まれている。

そこで、本研究テーマでは、これら地域の未利用バイオマスを余すところなく活用した魚類飼料原料や高栄養性飼料添加剤の開発を実施し、養殖業者と加工業者の両者の活性化を目指す。さらには、養殖魚の肉質の高品質化や生産性向上につながる機能性飼料添加剤の開発を進める。

### 3. 温暖化対応型真珠養殖技術の研究開発

真珠養殖は、愛媛県南予地域の最も重要な基幹産業の一つであるが、最盛期に比べ生産額が5分の1以下にまで落ち込んでいる。一方、これまで市場価値の高い南洋真珠(クロチョウ真珠、マベ真珠)養殖は、沖縄県や奄美大島で行われていなかったが、近年の海水温の上昇により愛媛県でも天然貝が確認され始めた。そこで、本研究テーマでは、これら市場価値の高い南洋真珠養殖技術を確立するため、先端的生命科学の手法を用いて革新的・効率的な種苗生産・養殖管理技術を開発する。

## 愛媛県南予エリア「持続可能な“えひめ発”日本型養殖モデルの創出」

